



令和5年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業

令和5年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催＝日本武道館・日本相撲連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）は、1月13・14日、研究者9名が出席して日本武道館大会議室にて実施された。

本事業では昨年11月に開催された第10回全国相撲指導者研修会（以下、研修会）の成果と次回に向けての課題などを中心に協議が行われた。

■1日目（1月13日）

開講式では、主催者挨拶で安井和男^{やすい かずお}日本相撲連盟副会長が1月1日に起きた令和6年能登半島地震に触れ「相撲の盛んな地域が被災した。金沢地区では相撲場の施設が破損したなど情報が入ってきている。まだ全容が見えないが、今のところ相撲関係者の人的な被害の報告は入ってきていない。復興に向けて大変な時期だが、我々も1日も早い復興を願っている。

来週から相撲授業支援推進委員会の外部指導者講習会が愛媛県松山市、島根県松江市、大阪府堺市で実施される予定である。また、ICT教材が近日納品されるので、連盟として各都道府県のコーディネーターと共に活用促進を図っていく。

この研究事業では研修会の振り返りと次回に向けて良い準備を進めていきたい」と述べた。

続いて、和田健日本^{わだ たけし}武道館振興課長が同じく主催者挨拶を、桑森真介^{くわの まさけ}研究者が研究者を代表して挨拶を述べた。

その後、安井研究者の司会進行で研修会の講義や実践内容の成果について報告書案をもとに協議を行い、次回に向けた課題を確認した。

この会には出席できなかった2名の研修会講師から下記のとおりコメントが寄せられた。

初の試みとなった『スモウインスパイアードトレーニング』を担当した桑野東朗^{くわの とうろう}講師から「参加者の年齢層の幅が広く、強度やレベルの調整が必

要だった。実際の現場でも子どもから大人まで需要に合わせて実施することが大事。終了後には本格的な講習を希望する声があった。このトレーニングが現場で活用されることで指導の視野を広げたり、特に女子選手の引退後のセカンドキャリアにつながる可能性がある」と感想があった。

また、模擬授業について長浦卓^{ながうらたくや}講師から「参加者全員で作る模擬授業はボトムアップ方式でとてもよかった。いろいろな手法やアイデアが出て、私自身とても勉強になった。できればメインの授業実施者は、相撲経験の少ない方を中心に担当してもらおうと指導者にとっても、より深い学びにつながるのではないか」と検討材料を提示した。

■2日目（1月14日）

集合写真撮影を行ったのち、第10回研修会の成果を次のようにまとめた。

- ・同じ講義テーマでも初心者参加者が多く参加してくれたことで新鮮な研修会となった。たくさんの質問カードが提出され意欲が感じられた。参加の動機や経緯などを知りたい。
- ・模擬授業を観察する担当班を決めないことで、全員が真剣に他班の実践を見学していた。協力してくれた中学生を含め、積極的に臨んでいた。
- ・初の試みとなったインスパイアードトレーニングは成功といえる。今後も継続実施していきたい。
- ・朝稽古も未経験者には良い経験となった。
- ・感想文には充実した研修会にするためのヒントがある。ニーズに応えられるよう準備を進めていきたい。

引き続き、第11回研修会について協議し、要項の参加資格に特別支援学校教員を加えることが決定した。また、講義や実技研修における時間配分と内容の確認ならびに実践事例紹介候補者の人選などを検討した。

閉講式では、浦嶋三郎^{うらしまさぶろう}日本相撲連盟参事が講評を、最後に和田課長が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。